



P02 トップメッセージ

P03 朝日放送グループCSR基本方針

基本的考え方・グループCSR基本方針と行動指針策定のプロセスとポイント
SDGsと朝日放送グループについて
CSR推進体制・グループ会社一覧

P07 巻頭特集「阪神淡路大震災から25年 過去映像から学ぶ、未来へつなぐ防災」

1.明日の大人たちへ...

子どもと情報リテラシー

- P10 - ABCテレビの制作するドキュメンタリー作品
エビシー教室「小中学生!夏休みABC社内授業」
P11 - エビシー教室「ABC出前授業」
エビシー教室「ABC社内授業」

若者のスポーツ振興

- P13 - 第101回全国高等学校野球選手権大会・東京五輪を目指すアスリート

子ども関連番組

- P11 - 「はじめてのバースデー」
ABCこども未来プロジェクト
P12 - アナウンサーによる児童福祉施設
支援などの取り組み

P14 Topic CS放送スポーツチャンネル「スカイA」社長インタビュー

編集方針および報告内容・範囲について

朝日放送グループは、2016年(CSR活動報告2015年度版)からCSR活動についての報告書を発行し、ステークホルダーの皆さまへの情報を開示して参りました。環境への配慮等を考慮し当初よりWEBサイトのみの報告にしています。

2018年4月のホールディングス体制移行に伴い、2018年度版より本報告も当社グループ全体のCSR活動に徐々に範囲を広げてお伝えしています。

なお、報告内容は、多くのステークホルダーの皆さまの中で最も私たちの発信する情報と接点の深い放送番組やイベントなどのコンテンツを中心にできるだけ分かりやすく平易な表現での編集を目指しました。

また、ESG視点では、環境面の一部、社会面での実践的CSR活動取り組みを中心に掲載しております。人事・コンプライアンス・基本ガバナンス等の情報は、一部当社ウェブサイトのIR情報に開示しておりますので参照願います。

対象期間 2019年4月～2020年3月。一部必要と判断した情報については、この期間以外のものについても掲載しています。

対象会社 朝日放送グループの全社(グループ各社についてはP.6を参照)
発行年月 2020年5月

エビシーが
案内するシー!



ABCキャラクター
“エビシー”

- ABC本社前の堂島川近辺で目撃されるUMA(未確認動物)
- ABCのテレビ・ラジオの電波が好んで本社近辺に出現

2.明日の暮らしへ...

災害報道の取り組み

- P15 - ニュース情報番組『キャスト』
P16 - 災害情報のエリア限定強制表示
P17 - ABCたなばた防災デー
防災ワークショップ開催

豊かな生活情報

- P17 - 安心・安全な家と暮らしを考える『防災本』
P18 - 太陽光発電事業・「みんなの木」活動
「ガラスの地球を救え」キャンペーン
クリーンアップ活動・打ち水プロジェクト

3.明日の文化へ...

P19 - 最近6年間の文化関連番組作品

- P20 - 「祇園祭 ～創始1150年!時代の波を乗り越えて～
担当者インタビュー」
P21 - 上方落語で最古の落語会!
ABCラジオ「第118回上方落語をきく会」

演劇・文化事業・イベント

- P22 - 三代澤康司のドッキリ!ハッキリ!
クラシックです!
ミュージカル「ズボン船長」

地域振興活動そのほか

- P22 - ABCラジオまつり2019
ABCフード&スマイルキャンペーン
P23 - 福島バル
福島×福島 日本酒バル
中之島なつまつり2019
中之島まるごとフェスティバル
イケフェス大阪「放送局のウラ側見学」
中之島ウエスト・冬ものがたり2019

その他活動ピックアップ

ABCラジオのCSR取り組み

- P24 - グループCSR「明日の大人たちへ...」
ABCラジオでCM放送を開始
ラグビーの試合に視覚障害リスナーをご招待
P25 - ピンクリボン スマイルウオーク神戸
「TABLE FOR TWO」参加スタートから1年
字幕・解説・手話放送
聴覚支援学校の社内見学/デジアサ

新型コロナウイルス感染拡大 テレビラジオでの取り組み

- P26 - アナウンサーによる「絵本読み聞かせ」企画
ラジオで卒業式・今こそ、家族とABCラジオへ
P26 - 今後に向けて

トップメッセージ

「変化に対応しながら進化を続け、
強力な創造集団として、社会の発展に寄与する。」

朝日放送グループの経営理念は、持続可能な社会実現のための私たちの決意を表明したもので、同時にグループのCSRビジョンの基本となるものです。

2018年4月の認定放送持株会社体制への移行から2年、また2021年には創立70年の節目を前に、私たちグループはいま新しい時代を迎えつつあります。

当社グループの事業は、1951年のラジオ放送からはじまり、テレビ放送、放送デジタル化、ネットメディアへの対応など、激動する情報社会の変化を受け止め、進化してきました。

そしていま、私たちの暮らしはインターネットやSNSで益々利便さを増していますが、あわせて多くの不確かな情報が世界中に溢れています。情報社会から

広く目を転じて、少子高齢化、地方の過疎化、頻発する自然災害や深刻な地球温暖化、感染症の蔓延、子供の貧困、紛争…。課題は溢れています。

朝日放送グループホールディングス株式会社
代表取締役社長

おきなか すすむ
沖中 進

これら様々な社会課題に直面する次の世代に、私たちは事業を通して、一体どんな効果的な価値を手渡しできるのでしょうか。メディアを根幹とする総合コンテンツ事業グループとしての責任を携え、広く社会の一員として一体どのような存在であるべきか、「企業の存在価値」そのものが問われています。

当社グループは、「グループCSR方針」（18年秋策定）をもとにして、毎年度、優先的に活動する事項を設定することにしました。19年度の「グループCSR重点目標」は、近年の大規模自然災害の頻発に鑑みて「命と暮らしを守る情報発信と取り組み」を進めるものです。様々な実践の中でも、阪神淡路大震災25年を機に行った「震災アーカイブの公開プロジェクト」は、次世代の防災減災という社会課題解決の取り組みの一助として多方面から高い評価を頂きました。この重点目標は20年度も継続して参ります。さらには中長期的な視野を持って、幅広い活動に持続的に取り組んでいこうと考えています。

当社グループでは、事業を通じたCSRや、国連が呼びかける持続可能な開発目標「SDGs」を広める活動を、さらに拡大させていきます。また、グループ従業員一人ひとりのCSR意識の浸透や土台作りも進めていきます。今後も、時代の変化に対応した新たな事業への挑戦を続けながら、多様な社会課題解決を目指し、当社グループと社会の持続的成長をともに目指しながら、あらゆるステークホルダーの皆さまの期待に応えて参ります。





あす
ー明日のより良い社会のために、いま子どもたちへ出来ることー

※上記は、朝日放送グループのCSRの思いを表す《CSRキャッチメッセージ》です。

朝日放送グループCSR基本方針

私たち朝日放送グループは、様々なコンテンツを通じて
明日の生活をより幸せで豊かにするため、進化を続けます。

《朝日放送グループCSR基本方針》は当社グループのCSRを推進する上での総合ビジョンです。

3つの行動指針

明日の大人たちへ...

メディアとしての責任を果たし、
子どもたちへより良い社会を手渡します

P.10へ

明日の暮らしへ...

地球環境と人の営みを大切に、
命と暮らしを守る情報を届けます

P.15へ

明日の文化へ...

歴史ある関西の文化を支え、
さらに豊かな文化を育み続けます

P.19へ

朝日放送グループCSRの基本的考え方

「朝日放送グループCSR基本方針」は、「メディアを中心とした朝日放送グループの事業は『CSRそのもの』」との観点の下、当社グループ各社が取り組んでいる本来の事業活動の中にある様々なCSR事例を再確認し、さらに発展させていこうというものです。そして、それら本業を通しての実践活動が様々な社会課題の解決を図り、今後の朝日放送グループと社会の持続的な成長に結びついていくものと考えています。

基本方針と3つの行動指針について

2015年9月の国連「持続可能な開発サミット」にて、世界共通の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、また一般社会や投資の世界でもESGやCSRなどがより多く語られるようになってきました。“何のために企業活動をしているのか”社会における「企業の存在価値」そのものが問われる時代です。そんな中、私たち朝日放送グループにおいても、2018年4月のホールディングス体制移行に伴い、グループ一体となった新たなCSR体制の推進強化を掲げて、従来のCSR方針を改定、新たにグループCSR基本方針を策定したものです。

グループCSR基本方針と 行動指針策定のプロセスとポイント

1

経営理念とCSR理念について

「企業の存在価値」そのものが問われる時代、つまり企業の「経営理念」と「CSR理念」は同義に近付きつつあります。私たち朝日放送グループの掲げる経営理念も、本来、企業と社会の持続的成長を意識した考え方であり、目指すCSR方針の導き出しの窓口になるものでした。

朝日放送グループの経営理念

変化に対応しながら進化を続け、
強力な創造集団として社会の発展に寄与する
≡ 《CSR理念》

2

経営理念の求めるもの ～ 戦略的CSRについて

経営理念が示す「時代と共に発生する様々な企業環境の変化に確実に対応」しながら、『戦略的CSR』(CSV)の視点で求めた社会課題とABC独自課題に共に対応し、社会と企業の双方により大きなメリットをもたらす活動に集中することを目指しています。

社会の課題

少子高齢化、
情報社会の複雑化、
大規模災害対応 等

ネット社会への対応、
防災減災情報 等

ABCの課題

社会と企業の課題に対応する
活動がCSRの基本となる

3

既にあるCSR事例抽出と 当社らしさの再発見

さらに、これまで既にあるCSR的意味合いの高い番組やイベント等の事例を抽出、整理、言語化するための社内リサーチを実施。特に、ABCが長い歴史の中で築き大切にしてきた「当社らしさ」をポイントにして、グループ内でのヒアリングなど社内対話を重ねました。



4

リサーチ結果とキーワード

ABCの課題、社会にとつての課題の両方を満たし多くのステークホルダーの皆様からも期待される要素は何か？浮かび上がった番組や取り組みなどに共有されるキーワードは、「子ども」「環境と暮らし」「文化」でした。

「子ども」

少子化・貧困・いじめ・虐待・自殺・犯罪の若年化などと次世代を担う子どもや青少年を取り巻く多くの課題が横たわる時代。加えて、進むネットメディアの台頭、更に今後はAIやフェイクニュース等複雑化する情報社会に直面し、メディア企業グループとして次のより良い社会の為にどんな情報を発信していくのか、今最も重要な課題と捉えています。

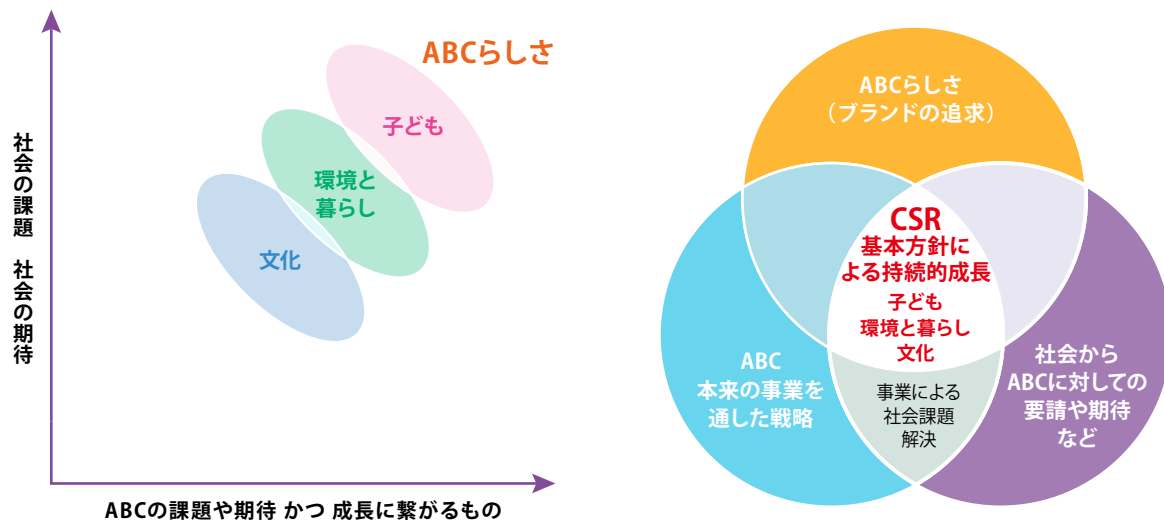
「環境と暮らし」

台風、豪雨、大地震など、近年頻発する大規模自然災害。南海トラフ地震、都市型大地震はもはや避けられず、あらゆる社会が一体となった防災・減災の取り組みが求められています。また地球温暖化を少しでも食い止める企業活動や暮らしの変革も待たない状況です。報道機関および情報メディア企業グループとして、今後更に地球環境と人の営みを大切に、命と暮らしを守る情報を確実に届けていきます。

「文化」

私たちの住む関西は、歴史ある神社仏閣や伝統芸能など世界に誇る多様な日本文化の宝庫です。海外観光客激増や情報グローバル化が進むいま、これらを大切に守り、またその姿を正しく内外に伝えることが出来ているでしょうか？有形無形の文化財の正しい情報発信や、放送・イベント等を通じた生活に喜びと豊かさをもたらす地域文化や芸術活動の振興に一層取り組んでいきます。

今後、グループのCSRとして優先的に取り組む重要課題を上記3項目に絞り込み、そこに寄せる考えを【朝日放送グループCSR基本方針】及び【行動指針】としてまとめました。



2019年度 CSR重点目標

グループ戦略CSR会議(+グループワーキング会議)で、2019年度に積極的に取り組む事項を下記のように決めました。

重点目標① 「新グループCSR方針」に基づいて各社各自が自身の業務を見つめ直しCSR意識の醸成と盛り上げを図る。

重点目標② 近年の大規模自然災害の頻発に鑑み、明日の暮らしへ『地球環境と人の営みを大切に、命と暮らしを守る情報を届けます』により注力する。

企業理念に基づく中期経営計画などミッションの実現

(基本的CSRやグループCSR方針の下支え)

朝日放送グループCSR基本方針(戦略CSR / CSV)

本業を通して、社会変化に対応しながら社会課題の解決にあたる姿勢や取り組み。結果、朝日放送グループと社会の持続的発展・成長も実現。

基本的なCSR

人権・労働・環境・ガバナンス・コンプライアンスなど

浸透・土台作りによるCSRマインドや意識の醸成

社内の理解が進み既存の番組や取り組みに自然に“CSR”が意識されるようになる。そして社員は自らの活動を見つめ直し業務への自信と誇りを深める機会を得ることで、CSRや持続的な企業価値上昇の為に土台がより強固になる循環が生まれていくことを目指す。

朝日放送信条(1966年に当時の朝日放送が設けた信条。グループのDNA精神)

- 一、平和と自由の精神を貫き、地域社会と文化の向上につくす。
- 一、進歩と寛容の理念により、品位と責任を重んじ、社会の信頼にこたえる。
- 一、報道と評論は常に中正な立場に立って、真実を正しく敏速に伝える。
- 一、番組は良識と知性を高めつつ、楽しさとやすらぎを与える。
- 一、広告に誇張を排し、清新な創意によって産業の発展を期する。

SDGsと 朝日放送グループに ついて

SDGsは、2015年に国連で採択された国際社会共有の「持続可能な開発目標」で、その達成が世界中で叫ばれています。貧困、環境・衛生、人権、気候変動、教育など、世界中が抱える社会問題を17の目標と169の詳細な課題に整理したもので、2030年までに達成することを目指したビジョンが掲げられています。

朝日放送グループはメディアを中心とした企業として、世界規模での多様な社会課題の解決にも少しでも貢献したいと考え、放送コンテンツなどを通じて、SDGsの存在やその内容を社会に広く紹介していきます。

そして、私たちも、自らの事業を通してCSR活動を推進することで、その先のSDGsの17の目標に対して達成できることを考え、取り組んで参ります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



行動指針の各活動と関連する 主なSDGs目標

明日の大人たちへ・・・

メディアとしての責任を果たし、
子どもたちへより良い社会を
手渡します

ニュース情報/社内出前授業/TABLE FOR TWO/
アナ福祉施設訪問ほか



明日の暮らしへ・・・

地球環境と人の営みを
大切にし、命と暮らしを守る
情報を届けます

防災減災情報発信や取組み/みんなの木/
リサイクル推進/太陽光発電ほか



明日の文化へ・・・

歴史ある関西の文化を支え、
さらに豊かな文化を
育み続けます

地域文化支援イベント/文化財番組/メセナ活動/
健康スポーツ文化支援ほか



CSR推進体制

朝日放送グループは、企業価値の持続的な向上には、社会の様々な課題に一層積極的に対応することが必要だと考え、2018年秋に「朝日放送グループCSR方針」を策定し、それを推進していくための仕組みや体制を整えました。グループホールディングス社執行役員会の諮問会議としてCSR担当取締役を議長とする「グループ戦略CSR会議」を設置し、毎年度優先的に取り組む重点目標やアクションプランの決定を行っています。さらに、その推進組織として「CSRワーキンググループ会議」も設置しました。

このワーキンググループ会議には、当社グループのCSR事業をさらに推進するためグループ各社各現場より選出されたメンバーが集まり、アイデアの出し合いや、各社の活動内容を報告してグループ間での情報共有をはかるなど、グループ全体のCSR推進にあたり重要な役割を担っています。

2019年10月開催の会議では、CSRメッセージを伝えるラジオCMの放送開始の報告や、各社の災害発生時の緊急対応についての議論、また、次年度以降のCSR重点目標をどのように定めるかなど、活発な意見交換がなされました。

朝日放送グループホールディングス社 執行役員会(諮問)

朝日放送グループ戦略CSR会議

会議参加：朝日放送グループホールディングス社／朝日放送テレビ社／朝日放送ラジオ社／スカイA／エー・ビー・シー開発



・・・事務局：グループホールディングス社 総務局

CSRワーキンググループ会議

会議参加：朝日放送テレビ／朝日放送ラジオ／スカイA／エー・ビー・シーメディアコム／エー・ビー・シーリブラ／ABCフロンティアホールディングス／デジアサ／アイネックス／マッシュ／ディー・エル・イー／エー・ビー・シー開発／ABCゴルフ倶楽部／エー・ビー・シー興産



年間の推進スケジュール

- 3月 グループ戦略CSR会議(年度総括と次年度重点目標に沿ったアクションプラン承認)
- 4月 ワーキンググループ会議(アクションP詳細共有や打合せ)
様々な活動
- 10月 ワーキンググループ会議(活動状況の進捗報告会、次年度重点目標方向付け)
- 11月 グループ戦略CSR会議(活動進捗チェックと、チェック反映「次年度重点目標」決定)
- 2月 ワーキンググループ会議(次年度重点目標アクションPの一次案共有、改善調整)

グループ会社一覧 (2020.3月末現在)

ABC テレビ テレビ放送事業
朝日放送テレビ(株)

ABC ラジオ ラジオ放送事業
朝日放送ラジオ(株)

スカイA CS放送事業
(株)スカイA

amc 通信販売業務、ラジオ番組制作、代理店業務
(株)エー・ビー・シーメディアコム

ABC LIBRA テレビ番組企画・制作、映像の保存・管理
(株)エー・ビー・シーリブラ

digiasa デジタルコンテンツ制作、字幕制作
(株)デジアサ

ABC FRONTIER
(株)ABCアニメーション、(株)ABCインターナショナル、
(株)ABCライツビジネスの経営管理、ライツ管理、新規事業開発
(株)ABCフロンティアホールディングス

ABC animation アニメコンテンツの企画・製作、海外販売、物販など
(株)ABCアニメーション

ABC International 番組販売、フォーマット販売など海外に関連する収益事業
(株)ABCインターナショナル

ABC RIGHTS パッケージ販売、物販事業、ライセンス事業、キャラクター事業
(株)ABCライツビジネス

-NEX+ 総合技術プロダクション
(株)アイネックス
株式会社アイネックス

MASH イベント企画・制作、プロモーション
(株)マッシュ

ディー・エル・イー
ファスト・エンターテインメント事業 **(株)ディー・エル・イー**
ちゅうらっぷす(株)

PROCEN STUDIO ポスト・プロダクション、音響制作
プロセンスタジオ(株)

abcd 住宅展示場の企画・運営、ハウジング・デザイン・センターの企画・運営、保険代理業、広告代理業、不動産事業
エー・ビー・シー開発(株)
ABC Development Corporation

ABC DREAM VENTURES コーポレートベンチャーキャピタルの運営
ABCドリームベンチャーズ(株)

ABC GOLF CLUB ゴルフ場運営
(株)ABCゴルフ倶楽部

ABC HORIZON 海外での新規事業開発およびビジネス調査・サポート
ABC HORIZON PTE.LTD.
(本社：シンガポール)

ABC 興産 警備保安業務、施設管理業務
(株)エー・ビー・シー興産

ABC Glamp & Outdoors グランピングを中核とした地域共創・エリア開発プロデューサー
(株)ABC Glamp&Outdoors

巻頭特集

阪神淡路大震災から25年 過去映像から学ぶ、 未来へつなぐ防災

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起きました。

誰もが予想だにせず、誰もが経験したことがない出来事…「このことはきっと忘れない」と思いながら、みんなが苦難の日々を過ごしていました。

あれから25年。神戸に住むおよそ半数が「震災を知らない人々」になると同時に、ABCにおいても、当時会社で働いていた人たちも少なくなっていました。

一方で、ABCには被災地を取材した映像財産がライブラリーに数多く保存されています。

最近では放送されないそれらの映像は、風化した25年前の記憶を呼び覚まします。そしてその映像のリアルは、地震のみならず台風や水害など様々なケースにおける防災のヒントの気づきを与えるものでした。

「これらの映像が伝える教訓を広く共有し、後世に繋げたい」との思いで企画を始めました。

今回、グループ各社の多くの人たちがスタッフとして参加しました。

「放送メディアが取材映像アーカイブを一般公開」という難題にスタッフのみんなは考え、自らのスキルをフルに稼働して取り組みました。それは25年前、報道だけではなくABC全員が被災の毎日に立ち向かうのと同じ姿でした。

ABCが社会に役立てるものは何なのか？みんなで考え続け、行動したいと思います。

基本情報

～「阪神淡路大震災25年企画」～

震災取材アーカイブ映像をWEB一般公開

朝日放送グループホールディングスは、グループCSR活動の一環として、阪神淡路大震災の発生から25年を迎えた2020年1月より、当グループが保有する震災映像をネットメディアなどで公開しています。

あの震災は、発生の瞬間から復興プロセスまで映像でつづさに記録された

世界初の大地震です。ABCのライブラリーには、貴重な取材映像が多く収められていますが、被災者の肖像権意識の高まりや報道記者の若年化など様々な事情から十分に活用できていませんでした。この取り組みは、メディア企業グループの社会的責任として、あの自然災害を後世に伝え、その記録映像から読み取る教訓を、頻発する自然災害の「防災・減災」に活かそうとするものです。

- 1月10日(金)：阪神淡路大震災の取材アーカイブ映像を公開するWEBサイト創設
(ABCテレビ公式ホームページ内 https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/)
- 2月2日(日)：公開した映像を基に防災減災情報を伝える上映&展示イベントを開催



『阪神淡路大震災』取材映像アーカイブ公開プロジェクトの道のり

1

膨大な取材映像を再検証



2

学生ワークショップ



3

研究者会議



4

コンプライアンス局、報道局との最終確認

5

震災映像アーカイブをWEB公開



6

「映像にまなふ!都市災害と明日の防災」展を開催



1

膨大な取材映像を再検証 ~災害映像アーカイブを2020年仕様にアップデート~

約800時間にもおよぶ震災取材映像から、当時の手書きキャプション(※)などを手掛かりに、短い映像(クリップ)に再編集。WEB公開用に約38時間・2000クリップにまとめ、キャプションの修正、インタビュー音声の書き起こし、撮影地点の地図座標などをプラスしました。
※撮影された時間・場所・内容が明記された記録。



(株)エー・ビー・シーリブラ ライブラリー担当・石井英和さん

保存されている映像を活用することがアーカイブの最終目的であると日々考えていたので、今回の企画にとついてもやりがいを感じました。作業は116本のテープのデータを一覧表にすること。シーンが変わるごとにExcelでセルを分けていくと、2400行を超える果てしない作業でした。インターネットのない時代に、住宅地図や電話

帳などアナログ資料を頼りに住所、建物名、商店名など書き起こしたキャプションに、当時の震災取材のがむしやらさを感じました。映像の中の街の様子、人の表情や溢れ出す言葉は、今の時代にも確実に伝わります。“生の映”として発信し続けることが、防災や生きるチカラにもなることを再認識しました。



2

学生ワークショップ ~震災を知らない世代が見た「阪神淡路大震災」~

阪神大震災を経験していない大学生の皆さんに、1995年8月に放送した「激震の記録」のダイジェストを視聴していただき、ご意見をいただきました。

(ご意見の一例)

「見たことがなかった避難所の様子。その惨状がよくわかった」



3

研究者会議 ~アーカイブ活用の効果と克服すべき課題とは~

災害や映像アーカイブ、肖像権等に詳しい研究機関・学術研究者をお招きし、研究会を行いました。東日本大震災を含めた災害アーカイブの保存や公開に関するこれまでの課題を共有し、WEB公開のあるべき形やアーカイブのより効果的な活用方法などを議論しました。

日時 2019年12月6日(金)
会場 ABCアネックス



4

コンプライアンス局、報道局との最終確認 ~公開するリアル、公開しないリアル~

防災を考える「社会財」としての活用を意図したWEB公開であるものの、震災当時の映像はインターネットでの公開を想定して撮影取材されたものではありません。インタビューにご協力いただいた数十人の方には公開を了解していただきましたが、確認がとれない方も多く、最終的には個人の尊厳、名誉を傷つけると想定される映像については公開しないと判断しました。また、公開後に削除のお申し出があれば、真摯に対応することを決定しました。

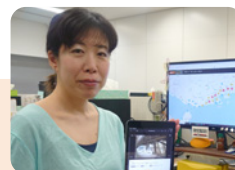
5

震災映像アーカイブをWEB公開

企画の立ち上げから約半年、グループ各社の地道な作業と様々な検討の結果、1月10日に震災映像サイト「阪神淡路大震災25年 激震の記録1995取材映像アーカイブ」を公開しました。その直後からメディアに取り上げられ、ツイッターでの反響も大きく、サイト開設後2週間で10万PVを突破。震災を経験した世代のみならず、震災の記憶がない若い世代にも多く視聴されました。

公開 2020年1月10日(金)

(株)デジアサ HP担当・清水さちえさん



「映像素材をそのまま、ありのままに見せる」をコンセプトに、映像数の多さと影響の大きかった地域を視覚的に捉えられるデザインにしました。サイトでは2000超もの映像を、Google Map APIを用いて地図上の地点として表示しています。スマートフォンでの利便性を考え、小さな画面やどんな縮尺でも映像のある座標が探しやすいよう工夫しました。映像公開直後、ツイッターでの反響が大きかったのが印象的でした。当時を振り返る方の投稿も多く、「映像」の伝える力が大きいこと、テレビの資産「映像」を公開することの社会貢献の意義を感じました。今後もこのサイトを継続し、映像情報の公開が良い循環につながるればよいと思います。

6

「映像にまなふ!都市災害と明日の防災」展を開催

1995年の特別番組「激震の記録」再編集版の上映会を中心に、会場内を大きく4つのゾーン(「逃げる」「救う」「食べる」「生きる」)に分け、防災関連の展示やパネル解説をテーマごとに掲示しました。展示ゾーンでは、自転車を使った汚水の浄水ろ過体験、アルファ化米のレシピ紹介&試食、作業の負担が軽減されるパワードウェア体験、レスキューロボットの展示&実演、そしてAED講習など様々なプログラムを実施しました。

日時 2020年2月2日(日)
会場 ABCホール

(株)マッシュ 防災イベント担当・ 玉城美佳さん



正直なところ、震災の映像を公開することで、辛い思いをされる方がいるのでは……という心配がありました。しかし作業前に映像を見て、25年経った今の技術やサービスでも解決できない課題があること、また25年後の今だからこそ発生している課題があることに気がきました。それをふまえ、「イベント」では、実現できること、実現したいことに重点を置きました。来場されたお客さまに、なにかひとつでも防災・減災につながるヒントを持ち帰っていただければ嬉しいです。

阪神淡路大震災25年 「激震の記録1995取材映像アーカイブ」

朝日放送テレビ 木戸 崇之

放送局として、どうしても「やるべきこと」だった。

震災取材映像の一般公開を思い立った きっかけは？

2014年に大学で災害について話したとき、学生の多くがあの震災について、ほとんど知らないことに驚きました。このままだと、あの震災が忘れ去られてしまうという危機感が、最大のきっかけです。

「取材映像のWEB公開」は放送局にとって 大きな冒険だと思いますが…

取材映像には、災害の悲惨な状況が映っていて、見る人に少なからずショックを与えます。一方で、そういう映像だからこそ、災害に対する教訓も多く含まれています。南海トラフ地震が心配される中で、公開をしないことの社会的損失を考えると、どうしてもやるべきことだと思いました。

木戸崇之プロフィール

1995年朝日放送入社。阪神淡路大震災発生直後、内定者として報道局を応援。記者だった2014年、人と防災未来センターで社外研修。同時に関西大学大学院社会安全研究科で災害情報について研究する。文化財担当記者の経験から歴史災害にも関心。現在「おはようコールABC」ニュースデスク。

企画を始めるにあたっての制作コンセプトは？

映像が語る教訓を狭めてしまわないよう、編集はほとんどしませんでした。字幕やナレーションも付けず、できるだけ取材映像をそのまま公開しているのが大きな特徴です。「当時の空気感が伝わる」という感想が多く、良かったと思います。

作業中はどうなところに苦労しましたか？

阪神淡路大震災では、地盤などの要因でそれぞれの土地独特の被害がありました。次に同じような地震が起こったときの参考になるように、Google MAP上で、その場所の映像を探せるようにしたのですが、2,000近くある映像クリップすべてに、緯度経度の情報をつけていくのは気の遠くなるような作業でした。

サイト公開以降、どんな反応がありましたか？

ツイッターで災害やメディア論の研究者、他メディアの関係者から「よく公開したね」という賛辞をいただいたことは正直嬉しかったです。1月17日の朝に阪急電鉄の公式アカウントで紹介され、3,000を超えるリツイートで拡散していただきました。震災のダメージから素早く立ち直ったインフラ企業の「若い世代への受け継ぎのために」というコメントには、じんときるものがありました。

ABCのCSR活動としての意味・意義については？

これまで放送局のCSR活動は、放送のウラ側を紹介するものや、放送と直接関係しないものが多い印象でしたが、今回、「放送局としてやってきたことがCSR活動になる」ことに気づきました。コツコツ積み上げるライブラリー管理という裏方の仕事を、ABCグループ各社の力でWEBやイベントなどに立体化できたことに、今後の様々な可能性を感じました。



放送メディアが「防災・減災」を 社会に伝えることの役割は？

今回の映像を見た若い記者から、「ここに映っている人に取材したいです」と言われました。過去の映像から災害のリアルを知ること、は、ABCの災害報道を強くするはず。アーカイブがその「入り口」になればいいと思います。テレビやラジオは、アクセスが集中してもダウンしないメディアです。災害時にテレビやラジオをつけたみなさんがより適切に行動できるよう、私たち自身が災害を学んでおく必要があると思います。

将来的な構想・ビジョンなどがありますか？

被災地の図書館が作った東日本大震災のアーカイブも、担当者の異動や予算が終了して消滅した例があるそうです。助言をいただいた防災研究者の方々からは「災害アーカイブは、継続が課題」と言われました。作って終わりではなく、見続けてもらえる仕掛けが必要です。25年前に経験した「都市型震災」の教訓は、関西だけのものではありません。「災害報道のABC」として広く認知していただけるようなアイデアを出せればと思います。

この震災アーカイブ公開プロジェクトは、当社本来の事業を通じて、大規模自然災害の頻発という自然環境の変化とインターネットによるメディア環境の変化に対応して、「防災減災」に関する様々な課題解決を図ろうとするものです。今後も、これら取り組みを起点に、自然災害に関する映像記録が、広く多様な社会に還元されるシステム創出に寄与し持続的な利活用が図られることを目指して参ります。

1 明日の大人たちへ...



メディアとしての責任を果たし、子どもたちへより良い社会を手渡します

放送番組やイベントなど朝日放送グループの様々なコンテンツを通じて、子どもたちが将来に希望を持てる社会をめざします。

ニュースやドキュメンタリーをはじめ、各種放送番組を通じて、社会が抱える様々な課題についての事象や知見をわかりやすく伝え、とりわけ少子高齢化や情報社会の進展・複雑化など、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応する活動に積極的に取り組みます。

ABCテレビの制作するドキュメンタリー作品

ABCテレビは2019年度に11のドキュメンタリー作品を放送しました。「豊かさを求めた先に」(5月12日放送)は、ベトナムやカンボジアから来た外国人技能実習生の苦悩の実態を取材班がキャッチし、独占密着取材しました。「僕だけにできること」(5月24日放送)では脳性麻痺の少年が、他者とコミュニケーションをはかることを自ら希望し自立していく姿を追い、テレメンタリーの年度優秀賞を受賞した「老障介護」(6月23日放送)では、高齢化社会と障害者介護の両方が抱える問題点について、なかなか知られることのない現実を伝えました。「医者がいる島・いない島」(10月14日放送)は、沖縄の離島で独自に医療を行う総合診療医と、瀬戸内の島々を巡る日本唯一の診療船を取材。「笑顔の村」(11月15日放送)では、村

の人口の半数以上が移住者である和歌山県・那智勝浦町、色川地区の人々の暮らしを描き、坂田記念ジャーナリズム賞を受賞しました。いずれの作品も、普段取り上げられる機会の少ない人々を丁寧に取材し、様々な社会課題にスポットを当て世に問う内容となりました。



基本情報

2019年度ABCテレビ制作ドキュメンタリー作品

《放送日》

- 2019.05.12 テレメンタリー2019「豊かさを求めた先に～外国人技能実習のゆがみ～」
- 2019.05.24 「僕だけにできること」
- 2019.06.02 テレメンタリー2019「link...～あいりんに取り残された労働者達～」
- 2019.06.23 テレメンタリー2019「老障介護～障害者のショートステイはいま～」
- 2019.07.28 テレメンタリー2019「我らが色川人～地元と移住者の40年～」
- 2019.09.16 「祇園祭」
- 2019.10.14 「医者がいる島・いない島」
- 2019.11.15 令和元年度文化庁芸術祭参加作品「笑顔の村」
- 2019.11.16 「夢追い人 テコンドー江畑秀範の闘い」
- 2020.02.09 テレメンタリー2019「遺品を故郷へ～地下壕に眠る生きた証～」
- 2020.02.24 「木苺を見つけるまで」

「子どもと情報リテラシー」

夏休みの「社内授業」をはじめ、「エビシー教室」では放送局の仕事や役割について楽しく学びながら、視聴者・リスナーなど多くの皆さんに放送局への理解を深めていただいています。

エビシー教室

「小中学生！夏休みABC社内授業」

エビシー教室
小中学生！夏休み
ABC社内授業

当社の社屋を現在の大阪市福島区に移した2008年から、毎年の夏休みに小中学生を対象とした社屋見学会を開催してきましたが、2018年からは「小中学生！夏休みABC社内授業」と題し、夏休みスペシャル授業を開催しています。

2019年は、『おはよう朝日・土曜日です』のスタッフとともに台風生中継に挑戦し、自然災害への備えの大切さを学んでいただきました。

本物のセットを使用して、レギュラー出演者の北村真平アナウンサー、八塚彩美アナウンサー、気象予報士の吉田裕一さん、エレクトーンの小椋寛子さんの指導のもと、司会、中継リポーター、気象予報士、エレクトーン、カメラマン、フロアディレクター、



それぞれの役割を担った子どもたちが、皆で力を合わせて番組を作り上げました。その場ですぐに出来上がった番組の上映会をしましたが、いつも見ている番組の中に登場した自分の姿に大喜びの様子でした。上映会の後は、吉田気象予報士から「自分の住む地域の自然災害の歴史を知り、備えよう」と夏休みの研究課題も出されました。

参加者には、楽しみながら自然災害への備えの大切さ、ニュース報道から正確な情報をいち早く得ることの重要性を学んでいただけたと思います。

基本情報

日時 2019年7月24日(水) 10:00～12:30／
13:30～16:00(各回30名)
対象 小学校5年生～中学校3年生
会場 ABCテレビ・ラジオ社内スタジオ、スカイテラス他

1.明日の大人たちへ...

エビシー教室「ABC出前授業」

当社は、2011年からエリア内（近畿2府4県）の小学校を、現場の第一線で働くディレクター、アナウンサー、記者、カメラマン等が訪問して「ABC出前授業」を行ってきました。過去9年間で通算168回実施しています。

2015年からは対象を、メディアの授業が始まる小学校高学年だけでなく、中学、高校、大学、専門学校、市民講座などにも拡げました。

授業は、番組作りや取材現場の裏側をお話ししながら、放送局の仕組み、社会への役割についてお伝えしています。また、持参した本物の放送用カメラ等に実際に触れてもらってカメラマン、スイッチャー、ニュースキャスターやフロアディレクターを体験することにより、より身近に放送局を感じていただく機会も提供しています。

2019年度はABCグループのCSRテーマ「防災」に繋がる「命を守る

エビシー 教室 ABC出前授業



ための正確なニュース、情報収集の大切さ」にも重点を置いて10回の授業を開催しました。

基本情報

対象 近畿の小学校高学年以上（グループ単位）
実施回数 10回（2019年度）

エビシー 教室 ABC社内授業



基本情報

対象 近畿の小学校高学年以上（グループ単位）
実施回数 15回（2019年度）

ABC テレビ

「はじめてのバースデー」

赤ちゃんの1歳の誕生日は、家族にとって、とっても大切な記念日。そんなHAPPYな日を、とびっきりの笑顔とともにお祝いする番組「はじめてのバースデー」は、2017年秋からABCテレビで放送しているミニ番組です。

子どもが生まれ、子育てが始まったその日から、親の生活は一変。自分の時間は皆無で、小さな命の世話に明け暮れ、くたくたになる毎が始まります。

でもそんな毎日は、実はもう二度と繰り返せないかけがえのないものです。そして気がつけば1年が経ち、我が子の誕生日を迎えます。

それはお父さんやお母さんにとっても、親になって1年経った「誕生日」なのです。

そんな時期を迎えているお父さんお母さんに、子育ての「実感」「喜び」「楽

しさ」「わが子への思い」を語って頂く番組で、放送開始以来、大勢の親子に登場していただいています。



基本情報

放送日 毎週土曜日 17:55～18:00

ABC
こども未来プロジェクト
(since2007)

ABC
こども未来プロジェクト

「ABCこども未来宣言」

朝日放送グループでは、全社横断的な組織として、「こども未来プロジェクト」を2007年1月に立ち上げました。「いじめ」「虐待」「自殺」「犯罪の若年化」など、子どもを巡る環境は厳しいものがあります。子ども

たちがさらされている危機は、私たちの未来が摘み取られていることと同じであり、そんな子どもたちが将来に対して、明るい希望をもってもらうため、朝日放送グループは、番組やイベントを通して、視聴者の皆さまと共に考えるコンテンツを発信し続けていきます。

1.明日の大人たちへ...

子どもたちを訪ねて

～アナウンサーによる児童福祉施設支援などの取り組み～

ABCのアナウンサーは長きにわたり、子どもたちと過ごす様々な活動を行っています。「放送」「表現」「言葉」「コミュニケーション」など専門性を活かしたお話しや、子どもたちと直接触れ合う絵本の朗読や実況の実演などの時間は、アナウンサーにとっても多くの学びの場となっています。

なかでも、「大阪市児童福祉施設連盟」への活動支援は、2010年度より継続して行っています。2018年には同連盟の創立60周年記念式典において、長年にわたる支援活動に対し、総合編成局アナウンス部に感謝状が授与されました。



今年度の活動内容について

毎年1月に開催される「新春こども大会」は、子どもたちが創作ダンスや歌などを披露する文化祭的なイベントです。今回は津田理帆アナと佐藤修平アナが務め、会を賑やかに盛り上げました。

2月には、柴田博・桂紗綾・佐藤修平・増田紗織の4名のアナウンサーが、大阪市内にある児童養護施設を訪問。幼稚園児から小学生まで約80名の子どもたちと、早口言葉遊び、絵本紙芝居、スポーツ大会等を実況風にしてお伝えするなど、楽しいひと時を過ごしました。

増田紗織 アナウンサー



明るくて元気いっぱいな子どもたちは、私を「サリーちゃん!」と呼んですぐ打ち解けてくれました。シスターと職員の皆さんがあたたかく見守る中、大きい子が小さい子の面倒を見る姿も微笑ましかったです。「早口言葉、やってみたい子!」と聞くと、「はいはいはい!」と手を挙げて、全力で挑戦してくれました。笑顔と笑い声に包まれた、楽しい時間を過ごすことができました。

佐藤修平 アナウンサー



初めての参加でしたが、子どもたちの溢れんばかりの「パワー」に圧倒されました!クイズ大会では、みんな前のめりで手を挙げて、指名される前に大声で答えちゃう...!(笑) そんな純粋で一生懸命な姿に、私もたくさんの「元気」をもらいました。また子どもたちに会いたい!

柴田博 アナウンサー



わずかながらでも何か社会に貢献できないかと始めた活動です。初めは手探りでしたが、今は部員1人1人が真摯に向き合い活動に取り組んでくれています。これからも愚直に謙虚に活動を続けていくことが大切だと感じています。



基本情報

大阪市児童福祉施設連盟
「第51回 新春こども大会」
日時 2020年1月19日(日)

大阪市児童福祉施設連盟加盟・
児童養護施設への訪問
日時 2020年2月4日(火)

大阪市児童福祉施設連盟理事 上利久芳さん

私たちの連盟は、児童養護施設や乳児院などで構成され、親と離れて約1000名の子ども達が生活しています。少子化の時代も、入所する子どもの数は減少していません。最近では保護者から虐待を受けた子どもの入所が増加しており、調査でも入所児童の66%が虐待を経験していると指摘されています。この状況は以前にも増して「専門的養育」が必要であり、また多方面からの支援も不可欠になります。

私の勤務する児童養護施設では、ABCのアナウンサーの訪問が10年以上続いています。ボランティア活動の最も重要なことは、継続性です。特別な人達ではなく、普段着の付き合いの出来る人達になることが、支援の充実につながると実感しています。ABCのアナウンサーは、子ども達にとってごく普通の身近なボランティアになっていると感じています。



「若者のスポーツ振興」

“日本一”の頂点を目指す熱き球児たちの戦い、東京オリンピックを目指す若きアスリート……
未来ある、すべての若者たちを応援しています。

第101回全国高等学校野球選手権大会



第101回全国高等学校野球選手権大会(主催:朝日新聞社、日本高等学校野球連盟)は、2019年8月6日から22日まで阪神甲子園球場で開催され、地方大会を勝ち抜いた代表49校が“日本一”の頂点を目指して熱い戦いを繰り広げました。

毎年、当社ではこの夏の高校野球のシーズンには、グループ社員&スタッフが総出で丸となり、選手をはじめとする未来あるすべての若者たちを応援しています!次の100年へ...、私たちは今後もこの熱い夏の戦いを、あますことなく皆さまにお届けしていきます。



基本情報

「第101回全国高校野球選手権大会」中継放送 2019年8月6日(火)~8月22日(木)

『次の100年へ 第101回全国高等学校野球選手権大会』

プロデューサーが見た“高校野球”とは!? ABCテレビスポーツ局スポーツ部 赤塚欣也プロデューサー

2019年、高校野球岩手県大会決勝戦で、今まで見たことのない光景を目にした。勝てば35年ぶりの甲子園、大船渡高校。絶対的なエース佐々木朗希の姿がマウンドになかった。4回戦で194球、準決勝で129球を投げた佐々木投手。決勝戦での登板回避は、彼の野球人生を考えた結果だった。

第101回の夏の高校野球。球児の「体調管理」のため、100回記念大会から設けられた休養日が、決勝戦前にも加わり、14日間のトーナメントに16日間の日程が組まれた。日本高野連は「日本一を決める試合に、できるだけいいコンディションで試合をさせてあげたい。」とコメントしている。

大会期間中、3回戦では星陵対智弁和歌山の試合、延長12回でも決着がつかずタイブレーク。星陵投手奥川恭伸は、延長になっても足を振りながら150キロを超える速球を投げる。延長14回、星

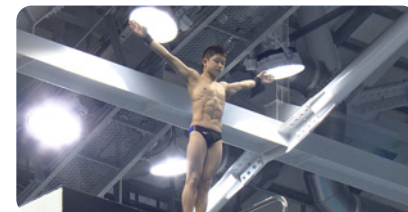
稜高校の3ランホームランで試合が決まったその時、応援していた高校も関係なく、甲子園球場は鳴り止まぬ声援と拍手に包まれた。奥川の夏の甲子園での完投は5試合中3回、甲子園で投げた球数は、512球。決勝戦では強打を誇る履正社に打ち負けた。ただ、奥川のインニング球数を考えた投球は、これからの高校野球を示すクレバーな投球だったと評された。

この年の秋、ラグビーW杯が日本で開催された。ラグビーは、コンタクトスポーツなので選手の休養が1週間必要。しっかりと「休養」を取って、死に物狂いで闘う。大会は1ヶ月半の期間を駆け行われた。世界基準の大会を見せてもらった。

高校球児の「ひたむき」な姿は、これから100年も変わらない。そんな彼らの姿を守るために、「根性」と「体調管理」という物が、同じ土壌で考えられてはいけないのかもしれない。

東京五輪を目指すアスリート

飛込・玉井陸斗選手



東京五輪を目指すアスリートを数多く取材し『キャスト』や特別番組で放送をしています。注目選手の1人が宝塚出身の玉井陸斗選手、13歳!飛込みで東京五輪出場を目指す中学1年生です。去年4月に初めてのシニア大会で、周りは高校生以上のお兄さんばかりの中、いきなり優勝。さらに9月の日本選手権でも史上最年少で日本一に輝き「スーパー中学生」として一気に注目を浴びるようになりました。

取材を始めた時は、まだ小学生。声変わりもせず、校庭で鬼ごっこを楽しむ姿が印象的でしたが、今では世界と戦えるトップアスリートに!スペインでの世界大会デビュー戦に同行した時、大健闘の4位もメダルを逃し流した悔し涙は今でも印象に残っています。

そんな玉井選手が才能を開花させたのは、練習に対する「姿勢」にあります。平日は夕方4時~夜9時までの練習で365日ほ

とんど休みはなし。最初の2時間は、柔軟や陸上トレーニング。そこからようやくプールでの練習。どんな練習もまじめにコツコツ取り組む「姿勢」こそ、彼のすごさ。さらに「東京五輪でメダル」という目標があるからこそ、それが練習の糧となり、何よりも飛込みは「楽しい!」「好き!」なものであるからこそ、より大きな成果となっているのです。

2021年、なんと14歳にして五輪出場を狙う玉井選手。出場どころか日本飛込界初メダルの期待さえも膨らみます。東京五輪はもちろん、その先も見据え長期取材を続けていきます。



基本情報

飛込・玉井陸斗選手 特集
2018年7月3日(火)キャスト
2019年5月28日(火)おはよう朝日です「目指せてっぺん!おは朝JAPAN」
2020年2月10日(月)キャスト「オリンピックそそもそのトコロ東京2020」

「放送」を、応援に。 スポーツ専門チャンネルだから できること、すべきこと。

CS放送 スポーツチャンネル 「スカイA」

野球、ゴルフ、Bリーグなどメジャースポーツから、マイナースポーツや学生競技まで豊富なスポーツを放送する「スカイA」。近年はゴルフ専門配信サイト『スカイA ゴルフLIVE』や、YouTube公式チャンネルの開設など、インターネットとリンクした事業もスタートさせています。今回はスカイAの森本社長に、スポーツ文化の発展や次代の担い手の発掘について、インタビューを行いました。

CS放送スポーツチャンネル「スカイA」 森本 茂樹社長インタビュー

注目の女子ゴルフなど、 スポーツ中継が充実。

スカイAの2本柱は、阪神タイガースと女子ゴルフ。阪神タイガースは試合だけでなく、キャンプやドラフト会議も中継しています。波野日向子選手の活躍で注目が集まっている女子ゴルフは、2012年から若手選手の登竜門「LPGA ステップ・アップ・ツアー」を全試合独占中継しています。女子ゴルフはここ数年で試合数も増え、盛り上がりを感じますね。野球やゴルフのほかに、スポーツクライミングやフィー



森本茂樹社長 プロフィール

1983年朝日放送入社。「ラブアタック」「アタック25」「新婚さんいらっしゃい!」「さんまの駐在さん」「たけしの万物創世紀」「M-1グランプリ」などさまざまな番組のディレクター、プロデューサーを経て、2018年4月より現職。

ルドホッケー、女子サッカーなどさまざまなスポーツを放送しています。また全日本マーチングコンテスト、日本高校ダンス部選手権、タグラグビー小学生全国大会など、子どもや学生の団体競技も多く取り上げています。

マイナーな競技こそ、 スカイAで取り上げたい。

若手選手の大会や学生競技は、地上波ではなかなか取り上げられません。まだメジャーになっていない競技にもスポットを当てるのが、スポーツ専門チャンネルとしての役割だと思っています。放送することで選手のモチベーションが上がりますし、地方出身の選手の活躍を地元へ届けることもできます。放送を見て興味を持った子どもたちが、その競技をはじめることもあると思います。

スポーツクライミングも、放送を開始した約10年前はマイナーな競技でした。それが今ではオリンピック種目になっています。長期的にファンや競技人口を増やしていけるのも、CS放送だからできることのひとつです。まだメジャーになっていない競技こそ、スカイAが応援して、盛り上げていきたいと思っています。

「放送」を通じて、 スポーツの未来に貢献していく。

これまで数多くの競技を取り上げてきましたが、想像以上に、「放送される」ということが競技者のモチベーションになっていると実感しています。そのことに、責任と同時にやりがいも感じます。放送の仕事は、伝えること。競技をしている姿をただ映すだけでなく、その奥にある想いもしっかり伝えていきたいと思っています。

昨年ゴルフ専門配信サイトをスタートさせましたが、今後は子ども向けゴルフレッスンなど、新たなコンテンツも投入していく予定です。どの競技も若い世代が育たなければ、先細りしていきます。宮里藍さんに憧れた選手がいま女子ゴルフ界を盛り上げているように、放送を通じてスポーツに興味を持つ子どもたちを増やし、頑張っている人たちを応援していきたいですね。

基本情報

株式会社スカイA
設立1990年。阪神タイガースは試合からキャンプまで年中放送。そのほか高校野球、ゴルフ、サッカー、ダンスなど多彩なスポーツ中継を行っている。番組の大半は自社制作で、51名のスタッフが熱意を持って制作にあたっている。

2 明日の暮らしへ...

地球環境と人の営みを大切にし、 命と暮らしを守る情報を届けます

頻発するあらゆる自然災害に対して、災害発生時の報道を迅速に行い、防災・減災に役立つ情報伝達を適切に実施するとともに、過去の災害などの知見を活用し、啓発活動にも取り組んでいます。



災害報道の取り組み ニュース情報番組『キャスト』



朝日放送テレビ・夕方のニュース情報番組『キャスト』では、2019年4月よりシリーズ「災害列島」を立ち上げ、様々な視点で特集コーナーにて災害、防災情報を発信しています。

「南海トラフ地震はきっと来る」(4月23日放送)では、前回の南海トラフ地震(「昭和南海地震」)の被災者である80歳の方を訪ねて話を聞きました。当時の被災地を歩き、実際にどのように逃げたのかなど貴重な証言をまとめることで、来るべき地震への備えに繋がりました。

「台風21号から1年大阪ベイエリアの防災を考える」(9月4日放送)では、大型の台風に襲われた際の高潮被害などについて、大阪湾の埋め立て地の安全性を検証しました。

2025年に大阪・此花区夢洲での開催が決定している大阪・関西万博に向け、防災視点であらためて考える内容となりました。

阪神淡路大震災から25年の節目の1月17日には、フリーアナウンサーの久米宏さんが生出演し、特

別企画「震災25年～キャスト×久米宏つなぐ次代へ～」を放送。『ニュースステーション』(テレビ朝日)のキャスターとして取材した当時を振り返り、同じくラジオで震災を伝えた道上洋三アナウンサーと共に、命を守るためのメディアの役割や災害への備え、震災を知らない世代に教訓や思いを伝えることの重要性などについて討論しました。

シリーズ「災害列島」放送例(一部抜粋)

- 震災に強い「レジリエンス住宅」って、どんな家?
- 南海トラフ探査船『ちきゅう』の一般公開に潜入
- 大阪北部地震1年
～淀川を渡るか否か?! 帰宅困難を考える～
- 西日本豪雨1年
土砂崩れの篠原台に砂防ダム建設工事開始
- 防災キッズを目指せ!
～夏休み・子どもサバイバルキャンプに密着～
- 台風21号から1年
大学にいる馬術部が、災害時に地域貢献へ
- 避難所をつくるドクター
～台風19号で被災した長野県へ・関西の医師に密着～
- 地球温暖化～みかん農家と気候学者が唱える温暖化の現実～
- 都市型災害に備えよう! 大阪市で帰宅困難対策
ウォーク開催～6時間以内に20キロを歩いてみよう!～
- 万博から学ぶ～大阪の防災は?～



基本情報

『キャスト』 月曜～金曜15:48～19:00 放送
出演: 上田剛彦・塚本麻里衣
古川昌希・澤田有也佳・津田理帆
(いずれもABCテレビアナウンサー)他

「災害情報のエリア限定強制表示」が 「電波の日」近畿総合通信局長表彰を受賞

ABCテレビでは2017年の秋から、テレビに登録した郵便番号を活用し、その地域に必要な災害情報に絞り込んで速やかにテレビ画面に表示する「災害情報のエリア限定強制表示」を始めています。ABCテレビとデジアサが独自に開発したもので、国内の放送局初の「先進的な取り組み」として、2019年6月、総務省より「電波の日」近畿総合通信局長表彰を受けました。

2019年は8月15日～16日にかけて台風10号が接近上陸した際をはじめ、14回運用され、多くのテレビに情報を表示しました。

その後にやってきた台風19号では、長野県や関東地方などで、同時多発的に川が氾濫したり、堤防が決壊したりする被害が出ました。こうした広域災害の際には、多くの情報が錯綜して自分に関係する情報を探しにくくなります。



一方で、大雨が局地的な場合は、特番体制に移行できず、本放送では十分な災害情報がお伝えできません。この仕組みは、災害が広域であつても局地であつても、テレビをご覧のみなさまがお住まいの自治体に、避難勧告や避難指示・特別警報・土砂災害警戒情報が発表されたり、近くを流れる主な河川では氾濫のおそれがある時には、特別なりリモコン操作をしなくても、テレビ画面上に情報を表示するものです。(一部時間帯を除く)。

テレビをつけるだけで、視聴者が自分に関係する情報を、いつでも確認できることから、「視聴者ファースト」の情報発信方法として評価され、系列内外の多くの放送局から、視察やヒアリングのご要望をいただきました。2020年5月からはNHKが全国で同種の表示を始めたほか、一部



の系列局が同様の仕組みの導入を決め、コマーシャルに字幕表示が被らないようにする知見について技術協力する取り組みが始まるなど、広がりを見せ始めています。

基本情報

テレビに登録された郵便番号をもとに、その地域に必要な情報を表示するサービス。詳しくは、ホームページで解説動画をご覧ください。
<https://www.asahi.co.jp/kyoseihyoji/>



「交通障害情報のエリア限定強制表示」に向けた共同研究を開始

鉄道の運転見合わせ情報は、出勤・登校前の視聴者にとって貴重な生活情報です。現在も本放送の字幕やデータ放送でお伝えするよう努めていますが、表示時間が短かったり、相対的に利用者の少ない路線の情報が十分伝えられなかったり、dボタンを押して必要な情報を探す必要があったりと、けっして「視聴者ファースト」な形ではありません。

そこで、「災害情報のエリア限定強制表示」と同じ仕組みを利用して、地域ごとに必要な交通障害情報に絞って情報発信する最適な方法を探る共同研究をスタートしています。交通障害の影響が及ぶ範囲は、自治体単位で区切ることのできる災害情報とは異なり、路線によりまちまちです。そこで、交通ビッグデータを使った分析の実績・定評がある、法政大学・中央復建コンサルタンツ株式会社との三者共同研究によって、スマートフォンの位置情報などを解析して、路線ごとの交通障害の影響範囲を導き出し、放送での実証実験を行うなど早期の実用化を目指しています。



基本情報

朝日放送テレビ、法政大学、交通分析の中央復建コンサルタンツによる共同研究。
発表 2019年12月17日(火)

「豊かな生活情報」

防災イベントなどを通じ、楽しく学びながら災害に「備える」意識を高める取り組みを進めます

ABCたなばた防災デー

当社主催としては初めてとなる「防災」関連イベントを、地元地域の皆さんと連携して実施しました。未曾有の大災害となった2018年7月の「西日本豪雨」からちょうど1年の節目に、ABCテレビ・タ方のニュース情報番組『キャスト』と協力し、水害・台風にも備える「防災」「減災」情報を発信しました。

上田剛彦・塚本麻里衣アナウンサーによる「ぼうさい紙芝居」や、清水とおる気象予報士（防災士）の「お天気と防災のお話」、防災食の試食体験や実験ショー、防災グッズ工作教室など、お子さんや家族連れの来場者とともに楽しみながら防災を意識し考える



機会となりました。1日で約1,300人が来場し、皆様からの関心・意識の高さを窺わせました。

基本情報

ABCたなばた防災デー
日時 2019年7月7日（日）10:30～16:00
会場 ABC本社・1F玄関ロビー／玄関アプローチ周辺

防災ワークショップ開催

「ナレッジキャピタルワークショップフェス2019 AUTUMN」（運営：（株）マッシュ）のプログラムの一つとして、命と暮らしを守る情報を届ける防災ワークショップ「エビシー天気予報～親子で学ぶ！命を守る天気予報～」を開催しました。



ABCテレビ『キャスト』等で活躍する清水とおる気象予報士と澤田有也佳アナウンサー、エビシーによるワークショップに約70名（45分3回）の親子連れが参加しました。「気象予報士の1日」と題したVTRで、気象予報士の仕事内容を紹介した後、身近な『雲』について詳しく学びました。少しでもお天気に親しみと興味をもっていただくことが、気象災害の予測や防災意識の向上にも繋がると考えています。

参加した子どもたちは「すごく勉強になりました」「いっぱい雲の種類を知れてよかった」と、楽しみながら熱心に自然災害から身を守る方法を学びました。

基本情報

ABCエビシー天気予報～親子で学ぶ！命を守る天気予報～
日時 2019年11月24日（日）11:00～・14:00～・15:00～
会場 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル4F ダイキンソリューションプラザ「フーハ大阪」

安心・安全な家と暮らしを考える『防災本』

ABCハウジングでは、家づくりに役立つ情報だけでなく、人々のよりよい暮らしに有益な情報を様々な媒体やホームページ、イベント等を通じてお伝えしています。“安心・安全・快適な暮らし”をテーマに、今までも「マイホーム事例集」、「土地本」、「安心の住まいづくりガイドブック」など様々なコンテンツを作成し、情報発信を行ってきました。ここ数年、ABCハウジングの成約者アンケートの声では、重要視するポイントとして、住宅の間取りや機能面だけでなく、地震や台風など自然災害から家を守るための住宅の耐震性や耐久性について関心が高まってきました。そこで、これらの声に応えるため、タイトルをズバリ「防災本」とし、“大切な家族を守れる家”とはどんな家なのか？を考えるコンテンツを作ろうと決めました。



この「防災本」では、自然災害について知ってもらうところから始まり、自然災害に負けない住宅の構造・技術の紹介、家族みんなで今すぐできる防災の準備・行動をわかりやすく掲載しています。家づくりを考えている人はもちろん、その他の人にとっても、安心・安全な暮らしを考えるキッカケになると嬉しく思います。

今後もABCハウジングだからこそ出来る、様々なジャンルの「知りたい！」に応えた情報発信を目指していきたいと思っています。



いますぐできる防災マニュアルも掲載

基本情報

1972年、ABC開発は日本初の住宅展示場事業を朝日放送から継承し、「ABCハウジング」というブランド名で事業活動がスタートしました。現在は近畿圏・首都圏あわせて23カ所に展開し、良質な戸建住宅の啓蒙普及と、安心安全な住まいづくりの提案を続けています。

2.明日の暮らしへ...

高石送信所 太陽光発電

2013年11月にスタートした大阪府高石市の高石ラジオ送信所の太陽光発電事業は、7年目に入りました。約29,000㎡の敷地に約1万枚の太陽光パネルを設置し、1990kWを出力し、発電した電気は関西電力に売電しています。クリーンな電力の創出を通じて、環境に配慮し、地球にやさしい放送局を目指しています。



参考
2019年
5月実績

太陽光発電電力

358,256kwh

現在のABC本社の使用電力

1,023,575kwh

・朝日放送グループホールディングス
・朝日放送テレビ本社
・朝日放送ラジオ本社

➡ 約**35%**を高石送電所の太陽光発電でまかなった計算です。

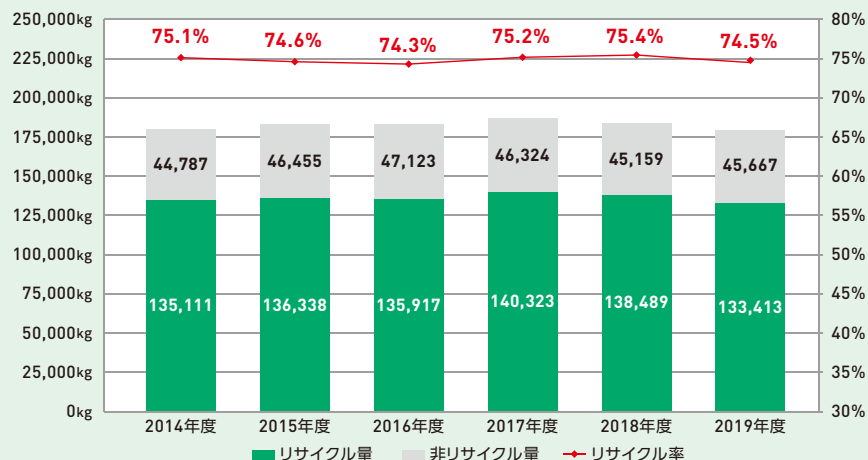
リサイクルの促進

社屋全体(ABC本社・アネックスビル)で、廃棄物のリサイクル促進に取り組んでいます。

過去6年間(2014~2019年度)のリサイクル率は70%超えを維持しており、「廃棄物の減量推進、適正処理を継続的に実施している」として、2015年度には大阪市環境局長表彰を受けています。

また経費削減の観点からも、印刷物の適切な発注管理とコピー用紙の使用量の抑制にも取り組んでいます。

社屋全体 廃棄量 (ABC本社・アネックスビル。外構除く。) 2014年度~2019年度



「みんなの木」活動

秋恒例「みんなの木・自然観察会」を、11月17(日)ABCラジオまつり会場にて開催しました。



次代を担う子どもたちに自然の大切さ、命の尊さを知ってもらい、未来の環境について考えてもらう機会として2007年に誕生した「みんなの木」活動も今回が通算56回目を数えます。

当日は青空が広がる好天に恵まれたうえに、その週の朝晩の冷え込みで万博記念公園の木々も秋色に。参加したおよそ180名の皆さんは、森林インストラクター協会が作った観察カードを片手に説明に聞き入り、落ち葉やドングリを拾うなど、ラジオパーソナリティと一緒にすっかり秋化粧をした森のひとつときを楽しみました。

クリーンアップ活動

4月と12月に、大阪の福島・中之島エリアの清掃活動を行いました。近隣企業や住民の皆さまにもご参加いただき、4月は60団体531名(2018年は41団体325名)、12月は71団体516名(2018年は41団体405名)と、回を重ねるごとに増加しています。いつも美しく安全で魅力的な街づくりを目指して、地域の皆様とともに活動しています。



基本情報

日時 2019年4月19日(金)・12月12日(木)
場所 大阪/福島・中之島西エリア

※クリーンアップ活動・打ち水プロジェクトは、当社が参加している中之島中西部エリア(中之島ウエスト)の企業や地域が集まってエリアブランドアップに取り組む「中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会」が主催

~「ガラスの地球を救え」キャンペーン(since2000)~



「ガラスの地球を救え」

1989年に他界した天才マンガ家・手塚治虫さんが最後に残したメッセージです。「これ以上人間の手によって、大切な空気が緑、そして青い海を汚してはいけません。次世代を担う子どもたちの夢を守らなければいけない」という思いが込められています。朝日放送グループは、2000年からこのメッセージを元に「ガラスの地球を救え」キャンペーンをスタートしました。

今後とも来場者の皆さんに自然に触れ親しみ、自然を大切にすることを考えていただける活動を続けていきます。

基本情報

みんなの木・自然観察会

日時 2019年11月17日(日) 場所 万博記念公園

打ち水プロジェクト

水都大阪を象徴する福島・中之島で河川水などを利用し、ヒートアイランド現象の緩和を目指すとともに、街を訪れる人へのおもてなしの心を込めて、2013年より活動を行っています。2019年は52団体900名(2018年は45団体750名)が「打ち水」に参加しました。



基本情報

日時 2019年7月26日(金)
場所 大阪/福島・中之島西エリア

3 明日の文化へ…

歴史ある関西の文化を支え、 さらに豊かな文化を育み続けます

放送番組やイベントなど朝日放送グループの様々なコンテンツを通じ、有形無形の文化財についての情報を国の内外問わず広く伝えることで、歴史ある関西の文化を支えます。また、お笑い芸能文化をはじめ、スポーツ健康文化や、ドラマ・音楽・演劇・アニメーションほか各種エンターテインメントなど、生活に喜びと豊かさを与える文化芸術活動の振興に一層取り組んでいきます。地域住民や近隣企業、自治体等と協力し、イベントなどを通じて、地域文化の活性化と賑わい創出のための取り組みを進めます。



最近6年間の文化関連番組作品

朝日放送テレビでは、創業以来、正倉院をはじめ歴史ある関西の文化財を取材し、発信し続けています。

代表的なものとしては、1980年に「創立30周年特番」として鑑真和上坐像の中国への里帰りを密着取材し、最新技術を使い中国から衛星中継で日本にその様子を伝えました。

1994年からは「歴史街道～ロマンへの扉～」の放送を開始。近畿2府4県、および三重県、福井県の文化財にスポットをあて、毎週月曜日から金曜日に5分番組として放送しました。

近年では、正倉院正倉の解体修理を独占密着取材し2014年に放送。また同年、平等院鳳凰堂の平成の大修理に密着した特番も放送しています。

さらに2018年には、興福寺で300年ぶりに蘇った中金堂の再建特番を放送。2019年は、創始1150年を迎えた祇園祭に完全密着した映像美をお届けし、歴史ある関西の文化の発信につとめています。

2014年度

「刻まれた歴史 ～正倉院密着1860日～」	2014年11月3日
「金色の翼広げて ～平等院は浄土の輝き～」	2014年11月24日

2015年度

「草原に目覚めた壁画を追え～モンゴル地下古墳の謎～」	2015年11月3日
「聖地・上賀茂神社 ～永遠の生まれるところ～」	2015年11月23日

2016年度

「生誕300年若冲～祈りの絵師～」	2016年9月22日
-------------------	------------

2017年度

「日本人と石の物語～voice of stone～」	2017年11月3日
----------------------------	------------

2018年度

「日本人とお茶の物語～おもてなしの誕生～」	2018年7月16日
「蘇る天平の風 興福寺中金堂 300年ぶりの復元～」	2018年11月23日

2019年度

「祇園祭～創始1150年!時代の波を乗り越えて～」	2019年9月16日
---------------------------	------------

「祇園祭～創始1150年！時代の波を乗り越えて～」

演出・プロデューサー しばた さとし 柴田 聡

「祇園祭」は、誰もが知っていると言っても過言ではない有名な祭りです。日本三大祭りとも動く美術館とも言われますが、祇園祭の何がすごいのか、祇園祭とはそもそも何なのか、それを知っている人は意外と少ないのではないのでしょうか。私自身が子どもの頃から祇園祭に憧れていたこともあり、その全容を解き明かしてみたいという思いを抱くようになりました。

当初の企画では、伝統を受け継ぐ子どもたちに焦点を当てる予定でした。しかし取材を進めるうちに、祇園祭というものに真正面からぶつかろう、ド直球で行こうという気持ちが生まれました。独自の歴史や文化を持つ京都の取材は難しいと言われますが、祇園祭の本質をとらえるために、祭りを支える町衆の方に密着することにしました。取材では、どこまで撮らせてもらえるか、そ

こが一番のチャレンジでした。一年前から準備を進め、何度も足を運ぶことで、少しずつ信頼していただけるようになりました。

祇園祭と言うと山鉦に注目が集まりますが、山鉦の巡行に携わる町衆の方はもちろん、神輿渡御など他の町衆の方に関わっている行事がたくさんあります。特に印象に残っているのは、早朝から「斎竹（いみたけ）」を立ててご奉仕される高橋町の方々。裏方に徹しておられるその姿に心を打たれ、高橋町の方々が山鉦を並んで待っているシーンには感動しました。いろいろな



柴田聡プロフィール

報道局ニュース情報センター所属。スポーツからテレビ制作を経て、現在は文化財番組を担当。歴史を愛し、京都に憧れ、約10年前から京都に在住。現在は、お茶、生け花、漆器など、京都の伝統文化の継承者たちをシリーズ化する作品の取材を進めている。

「祇園祭」に、真正面からぶつかる。

人が支えていて、みんな誇りを持って関わっていることが伝わる画になったと思います。



1150年前に生まれた祭りが、今も脈々と受け継がれている。それは、その町に生まれた誇りが支えているのだと感じました。もともと神事であった祇園祭を町衆が復活させ、何度も戦争や大火に遭いながらも再興させた、その熱意と努力が今も息づいているのだと思います。だから町衆の方々は、観光客が来ても来なくても、毎年ずっと同じ日に、同じように祭りをする。「祇園祭」という大きなお祭りではなく、それぞれの鉦町が自分たちの町の祭りを守り続けている、そのように感じました。

今回の作品は、「祇園祭」というものがどんな祭りなのか、何十年後に見てもわかってもらえるように作ったつもりです。編集もシ



ンプルに、出来事を時系列で追っています。できれば、小中学校など教育の現場で見てもらえたらうれしいですね。ABCという関西の放送局として、これからも「京都」という大切なソフトを生かしていきたいと思っています。



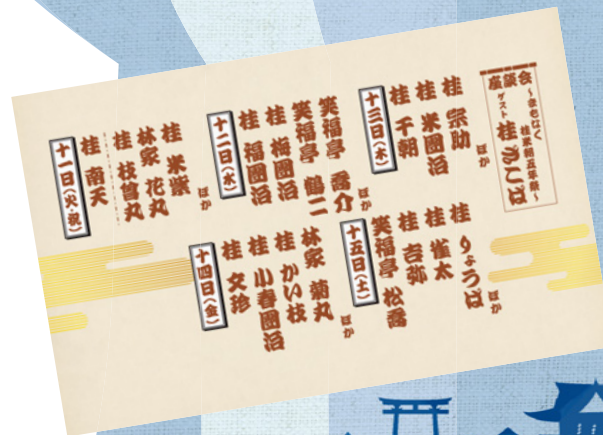
基本情報

放送日 2019年9月16日(月)9:55～11:12
創始1150年を迎えた祇園祭。一年間にわたる密着取材を通じて、祭りのルーツ、歴史、動く美術館、知られざる行事、そして祭りを支え続けてきた町衆の姿を、美しい映像で紡ぐ。

上方落語で最古の落語会！ ABCラジオ「第118回上方落語をきく会」

朝日放送ラジオ(株)が主催する「ABCラジオ 上方落語をきく会」は、イベントやラジオ放送を通して「上方落語」に触れる機会を創出し、関西の歴史ある伝統芸能文化を支えたいと考えています。

上方落語会復興のきっかけとなった昭和30年の第一回公演(公開録音)から65年の節目を迎えた今回は、ABCホールでの5日間連続開催となり、大御所から若手まで精鋭が集結し、芸の競演が繰り広げられました。



3.明日の文化へ...

THIS IS MECENAT
2019

「ABCラジオ 上方落語をきく会」は、「公益社団法人企業メセナ協議会」が主催するメセナ活動認定制度《This is MECENAT 2019》に認定されています。

桂: 今回も25名の噺家さんで大いに盛り上がりましたね!

戸谷: でも上方落語界には、まだまだ魅力的な噺家さんがたくさんいるんですよ。人情噺など、ネタのバリエーションも豊富。**だからラジオを通じて、こんな人いますよ!こんな落語もありますよ!**というのを伝えたいと思っています。

桂: 私自身も落語を演じるのですが、きっかけは2017年の「第115回上方落語をきく会」なんです。**落語ってこんなに面白いんだ!**と驚きました。

戸谷: 入門同期の噺家さんが集まった「ラクゴリラ」と「花の平成六年組」が対抗戦を行った会ですね。この2つのグループは、キャリアが近くて、それぞれに実力も個性もある。皆さんが全力で笑いを取りにいきましたからね。

桂: 演者さんの熱気がすごかったです。

戸谷: 一般的な落語会は入門順で出番や役割

桂紗綾アナウンサー

CROSS

TALK

戸谷公一プロデューサー

「上方落語をきく会」は、落語のフェスです!

が決まっています。トップバッターから最後に登場する噺家さんに向かってだんだんと盛り上げていく構成になっています。でも「上方落語をきく会」はラジオですから、どの噺家さんにも、一番自信のあるネタでお願いしているんです。

桂: つながり野球ではなく、**全員が自分の打席でホームランを狙うんですね。**でもそうすると、噺家さん同士、揉めたりするのでは?

戸谷: 喧嘩になったこともありました(笑)。僕は「上方落語をきく会」は、**落語のフェスだと思っています。**会場は300人ですが、リスナーさんは少なくとも10万人以上、今はradikoもありますから全国の方が聞いてくださっています。ラジオの向こうでたくさんの方が盛り上がってくれる、そんな場ですから、思いっきりホー

ムランを狙ってほしいんです。

桂: 落語の面白さを、ラジオの向こうの人に届けるんですね。**私は落語を入り口に、日本文化に触れられるところの魅力**かなと思っています。歌舞伎や文楽、着物や座布団の使い方などを、自然に学ぶことができます。



戸谷: 落語は、日本の文化を気軽に楽しんでいるうちに興味が深まり広がっていくものなんですね。

桂: では最後に、次回に向けての意気込みはいかがですか?

基本情報

第118回 ABCラジオ 上方落語をきく会(イベント&ラジオ同時中継)
日時 2019年2月11日(火)~15日(土) 18:20~21:00
会場 ABCホール
司会 三代澤康司 伊藤史隆 桂紗綾(ABCアナウンサー)

戸谷: 「上方落語をきく会」は噺家さん、会場のお客さん、番組スタッフが三位一体となって面白い舞台を作り、それをラジオにのせて広める場だと思っています。いわば三者は、共犯関係ですね。この精神は、第一回から変わっていません。上方落語の火が消えかかっていた昭和30年12月、ABCラジオが放送の場を作り、噺家が落語を披露し、熱心なお客さんが集まって盛り上げてくれた。僕もその流れをしっかり受け継いで、これからもラジオにのせて、上方落語の魅力を広めていきたいと思います。

桂: **若いファンを増やす**ためにも、長く続けて行かないとなりませんね。

戸谷: **ラジオと落語はすごく相性がいい**ですからね。もちろん、上方落語の文化を支えるためにもまだまだ続けていきますよ!

桂: さすが、上方落語「愛」がありますね!

戸谷: ラジオ「愛」ですよ(笑)。

戸谷公一
プロデューサー



桂紗綾
アナウンサー

「演劇・文化事業・イベント」

ドラマ・音楽・演劇・アニメーションほか各種エンターテインメントなど、生活に喜びと豊かさを与える文化芸術活動の振興に取り組んでいます。

三代澤康司のドッキリ!ハッキリ!クラシックです!

三代澤康司アナウンサーと指揮者の寺岡清高さんが「トーク×本格派コンサート」でクラシックの秘密を“大人目線”で解き明かす新感覚コンサート!2019年は16回目を迎え、エンタテインメント大国アメリカの音楽の足跡を、思わず口ずさみそうな名曲と共に紐解きました。

基本情報

三代澤康司のドッキリ!ハッキリ!クラシックです!大人のための「アメリカ音楽」入門～エンタテインメント大国のルーツを探る～
日時 2019年10月5日(土) 14:00～
会場 ザ・シンフォニーホール



ミュージカル「ズボン船長」



原作はあの「魔女の宅急便」の角野栄子さん。角野さんが大切にしている作品がプロジェクションマッピングを駆使した美しく幻想的で楽しいミュージカルになりました。一人の男の子が体験するひと夏の冒険を描いた舞台には大勢の子役たちが登場し、ダンスや歌を学んでいる子どもたちもたくさん会場に詰めかけました。

基本情報

日時 2019年12月20日(金)～22日(日)6回公演
会場 梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ

「地域振興活動そのほか」

地域住民や近隣企業、自治体等と協力し、イベントなどを通じて、地域文化の活性化と賑わい創出のための取り組みを進めています。

ABCラジオまつり2019

ABCラジオでは、リスナーの皆さまへ日ごろの感謝を込めて、お祭りイベントを開催しています。生放送やライブステージ、物販・飲食ブース、体験コーナーなど、盛りだくさんの内容です。2019年もABCラジオでおなじみのパーソナリティが大集合し、トークイベントを楽しんでいただきました。さらに音楽を中心にしたライブのほか、臨時スタジオからレギュラー番組の公開生放送も実施しました。また、日本中が熱狂したラグビーが体験できる「ラグビートライゾーン」も設置。関西学院大学ラグビー部の皆さんの協力を得て、タックルやラインアウトなど、たくさんの方々にラグビーの魅力を体験していただきました。当日は6万人を超える方々が来場され、秋化粧した万博記念公園での1日を楽しんでいただきました。



基本情報

日時 2019年11月17日(日)9:30～16:00
会場 万博記念公園 自然文化園「お祭り広場」「下の広場」

ABCフード&スマイルキャンペーン

食と笑顔をテーマに関西を盛り上げる番組連動型イベント「ABCフード&スマイルキャンペーン」を2週間にわたって開催しました。4月22日～29日はABCテレビのレギュラー番組と連動した「食のスペシャルウィーク」企画を放送し、27日には特別番組『千原ジュニアの輝け!KANSAI紅白美味いもん合戦2019』を生放送しました。27日～30日は本社屋で「ABCフード&スマイルフェス」を開催し、『M-1グランプリ』を360度の迫力で体験できるVRや、初めて料理をする子どもたちにカレーづくりを教える「ファミリークッキング」などを、多くの家族連れが楽しみました。4月22日～5月6日は、食べログ3.5以上のお店が出店する「フードソニック2019 in 中之島」を開催。「ABCフード&スマイルキャンペーン」と合わせて、およそ14万5千人の来場者で賑わいました。



基本情報

日時 2019年4月22日(月)～5月6日(月)
会場 ABC本社屋周辺

福島バル

大阪・福島区の人気飲食店が多数参加して地域を盛り上げるイベント「福島バル」(主催:元気なお店創造委員会)に、ABCは2017年6月開催の「第12回福島バル」から協力しています。6月開催の「第16回福島バル」では、エビシーのデビュー4周年記念イベントを当社玄関ロビーにて開催し、ライブステージにエビシーが登場。また、11月開催の「第17回福島バル」では、ラグザスクエアにある福島バル本部前に、エビシーが登場。

当社屋のある福島区エリアの食文化を応援する形で多数のエビシーファンや地域の方々、「福島バル」を訪れた方々をおもてなしました。



基本情報

「第16回福島バル」日時 2019年6月1日(土) 会場 ABC本社玄関ロビー
「第17回福島バル」日時 2019年11月16日(土) 会場 ラグザスクエア

福島×福島 日本酒バル



ここグルメの街・大阪市福島区で開催された、酒処福島県の本酒を楽しむイベント「福島×福島 日本酒バル」(主催:福島県)に参加し、当社玄関ロビーにて日本酒試飲会を行いました。同じ「福島」がタッグを組み、福島県から39の蔵元、福島区の39の飲食店が参加、試飲会には17の酒蔵が出演しました。当社は、地域エリアの食文化支援と東日本大震災復興支援の一環としてこのイベントに参加、「エビシー」とともに福島復興のシンボルキャラクター「キビタン」も駆けつけてくれました。ライブ演奏に加え、復興に向けての福島県の取り組みをパネル展示、福島県制作のミニ

ドラマ「ふくしまの酒」なども上映し、美味しい福島のお酒を振る舞われた来場者の皆さんは、束の間の「福島ライフ」に酔いしれました。

基本情報

福島×福島 日本酒バル 日本酒試飲会
日時 2019年9月14日(土)15:00~18:00 会場 ABC本社玄関ロビー

中之島なつまつり2019

毎年恒例の夏イベント「中之島なつまつり2019」が開催され、エリアの住民や企業関係者らで賑わいました。このイベントは、朝日放送グループホールディングス株式会社など「中之島なつまつり実行委員会」が主催して開催したもので、今年で7回目。中之島西部地区で事業を行っている主な企業を中心とした実行委員会主催による「盆踊り」をメインに、この地区にお住まいの方々と、企業関係者や企業で働く方々とのコミュニケーションの機会を築いてきました。当日は約7,700名が参加し、司会は、北村真平&増田紗織ABCアナウンサーが務め、浴衣姿のエビシーも登場し会場を盛り上げました。



基本情報

まちなかで ゆかたきて ぼんおどり
「中之島なつまつり2019」
日時 2019年8月26日(月)17:00~
会場 大阪国際会議場及び中之島パルクス

中之島まるごとフェスティバル

2014年から続く東日本大震災の被災地復興支援イベント「中之島まるごとフェスティバル」の一環として、当社は本社玄関ロビーで「ABC with Shion チャリティコンサート〜木管五重奏と楽器に触れる時間〜」と題したコンサートを開催。オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラが出演し、桂紗綾アナウンサーが司会を務めました。会場では、音楽を通じた文化復興活動支援のための募金活動のほか、木管五重奏の効果音とともに桂アナが語る紙芝居「稲むらの火」や、演奏家の皆さんによる「楽器体験コーナー」など、大人も子どもも楽しめる内容となりました。



基本情報

「ABC with Shion チャリティコンサート」
〜木管五重奏と楽器に触れる時間〜
日時 2019年10月19日(土)15:00~
会場 ABC本社 1F玄関ロビー

イケフェス大阪「放送局のウラ側見学」

大阪の魅力ある建築文化財を一堂に公開する日本最大のイベント「生きた建築ミュージアム フェスティバル 大阪(イケフェス大阪)2019」に参加し、10月26日(土)にABC本社ビルガイドツアー「放送局のウラ側見学」を実施しました。イケフェス実施委員会の募集で選ばれた30名が参加した見学会は、ラジオスタジオ、テレビのニューススタジオに加え、社員もあまり見ることのない地下1階の免震施設、災害に備えた備蓄倉庫も紹介。その後は10階スカイテラス、リバーデッキに福沢諭吉生誕の碑を回り、正面玄関大階段前がゴールというおよそ90分の見学会でしたが、参加した皆さんは熱心に施設や社屋外観などに見入っていました。ABCは放送によって情報を伝えることを仕事としていますが、「建築文化財としての社屋の一般公開」という形で当社を知ってもらうことも有意義であると感じる一日となりました。

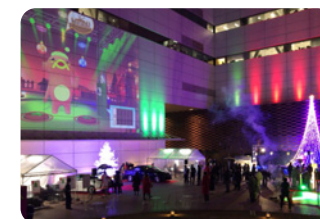


基本情報

「生きた建築ミュージアムフェスティバル
2019」ガイドツアー:放送局のウラ側見学
日時 2019年10月26日(土)13:00~
15:30~(各15名) 会場 ABC本社

中之島ウエスト・冬ものがたり2019

本社近隣の中之島西エリアの活性化とイメージアップにより、地域価値の向上に資することを目指すイベント「中之島ウエスト・冬ものがたり」は2012年にスタート。2019年度のメインプログラムは本社屋前の福島港(ほたるまち港)を中心に行われました。一帯の樹木には、秋のABCラジオまつりに来場した子どもたち約400名が笑顔を描いた作品が「ひかりの実」として灯され、社屋南側正面の堂島川では、大噴水ライトアップも行われました。堂島川に面したABCリバーデッキでは、「エビシー・きらきら・クリスマス」を実施。壁に投影した当社キャラクター・エビシーを動かす参加型ゲームでは、子どもたちが元気に体を動かして楽しみました。



基本情報

中之島ウエスト・冬ものがたり2019「エビシー・きらきら・クリスマス」ほか
日時 2019年12月13日(金)~25日(水)18:00~21:00 会場 ABCリバーデッキ ほか

ABCラジオのCSR取り組み

グループCSR「明日の大人たちへ…」 ABCラジオでCM放送を開始

グループCSRキャッチメッセージ「明日の大人たちへ…～明日（あす）のより良い社会のために、いま子どもたちへ出来ること～」を、より多くのリスナーの皆さんに知っていただこうと、ラジオCMを制作。

9月3日（火）ラジオスタジオにて、道上洋三アナウンサーによる力強いメッセージを収録しました。私たち朝日放送グループの様々なコンテンツを通じて、明日の生活をより幸せで豊かにしたい！という熱い想いのこもった20秒のラジオCMです。

ABCラジオ（AM 1008kHz / FM 93.3MHz）では、9月19日（木）より放送を開始し、現在も放送中です。



基本情報

「明日の大人たちへ…」ラジオCM 放送開始 2019年9月19日（木）

ラグビーの試合に 視覚障害リスナーをご招待

2月2日（日）に行われた「ラグビートップリーグSDGsマッチ 神戸製鋼 vs NTTドコモ」。この試合に、ABCラジオの各番組で呼びかけた10組20人（視覚障害者と介助者）をご招待しました。マイクをつけた伊藤史隆アナウンサーと谷口真由美さんがラジオ実況風に喋り、それを通信機器を使って受信機で皆さんに聴いていただく…という方式。スタジアムの歓声や空気を感じながら、ボールや人の動きを「ラジオ実況」でフォローしようというものです。



伊藤アナ・NTTドコモラグビー部の皆さん・
谷口真由美さん



基本情報

「伊藤史隆のラジオノット」PRESENTS企画ラグビートップリーグSDGsマッチ
神戸製鋼 vs NTTドコモ 視覚障害のリスナーご招待
日時 2020年2月2日（日） 会場 神戸市須磨区・神戸ユニバー記念競技場



【実況・伊藤史隆アナウンサーの話】

「ONE TEAM」が流行語大賞になり、日常会話で「ジャッカル」なんて言葉が飛び交う空前のラグビーブーム。「でも、この熱が届かず、取り残されている人はいらっしゃる…。そんな人をゼロにできないかな?」。大のラグビーファン・谷口真由美さんと番組で話すうちに、「じゃあ、まずは、目の見えない皆さんをラグビー場にお連れしましょう!ラジオのチカラで“にわかファン”をさらに増やしましょうよ!」と、ごく自然に生まれた企画でした。

冬晴れのスタジアムで、歓声に包まれて表情を輝かせる視覚障害の皆さんの隣に座り、「ラジオだからできること」「ラジオにしかできないこと」を嬉しく噛み締めた一日でした。



ピンクリボン スマイルウオーク神戸

「ピンクリボン」は、乳がん啓発活動を表す世界共通のシンボルです。

当社は、2004年より、「ピンクリボン スマイルウオーク神戸大会」(主催:日本対がん協会、朝日新聞社、ABCテレビ、神戸新聞社 ※神戸新聞は2011年から)の開催をお手伝いしています。

2018年度に「ピンクリボン スマイルウオーク神戸」は15周年を迎えました。

2019年は10月12日(土)に、兵庫県神戸市のスペースシアターのステージで専門医とゲストによる啓発トークを行った後、2000人を越える人たちが10キロ、5キロ、3キロのコースをウォーキングして乳がん啓発活動を行う予定でした



©2003 日本対がん協会

が、荒天のため残念ながら中止となりました。検診車での乳がん検診や、自治体での検診情報の提供、賛同する協賛各社、乳がん患者団体によるブース出展などさまざまな催しなども2020年も継続して行きたいと考えています。イベントを通じて、乳がんのことを理解し、命の大切さに共感し、検診への一歩を踏み出してもらえるよう、これからも応援を続けます。

基本情報

日時 2019年10月12日(土)
会場 スペースシアターほか ※荒天により中止

「TABLE FOR TWO」参加スタートから1年

「TABLE FOR TWO」とは、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む日本発の社会貢献運動で、特定非営利活動法人「TABLE FOR TWO International」がプログラム運営を行っています。当社では、このプログラムに2019年2月7日(木)から参加しています。

本社食堂の「ヘルシー弁当」(木曜のみ通常価格より20円UP)を注文すると、1食につき「20円」が寄付され、「TABLE FOR TWO」を通じて、(1)開発途上国の子どもの学校給食になり飢餓・貧困の解消の一助に、(2)私たちの生活習慣病などの解消の一助につながっています。つまり、1卓の食事で(1)と(2)のTWOにつながります。



当社では、この1年間で790食、15,800円を寄付することにつながりました。今後もこのプログラムに参加、貢献を続けていきます。

基本情報

日時 2019年2月7日(木)より原則毎週木曜日
会場 ABC本社10階食堂

字幕・解説・手話放送

ABCテレビでは、耳の不自由な方や高齢者の方により番組を楽しんでいただけるように、グループ会社のデジアサと共に字幕放送を実施しています。字幕放送とは、出演者のトークやセリフ、ナレーションを文字や記号にして、画面にわかりやすく表示するものです。現在はバラエティ、ドラマ、アニメのほか、ニュースやスポーツなどの生放送でも、リアルタイムに字幕放送を実施しています。2019年度からは、レギュラーでの手話放送もスタートしました。地域の手話通訳者の方々と連携しながら、手話放送の拡充につとめてまいります。

また、目の不自由な方にもテレビ番組を楽しんでいた

だけるよう、ナレーターが情景描写や出演者の表情など副音声で説明する解説放送も実施しています。今後も字幕放送や解説放送、手話放送の拡充を通じて、情報アクセシビリティの向上に努めてまいります。



基本情報

字幕放送 7:00~24:00までのバラエティ、ドラマ、アニメのすべて番組
※手話放送、解説放送は番組によって異なる

聴覚支援学校の社内見学/デジアサ

株式会社デジアサは、WEBコンテンツ、モバイルコンテンツ、データ放送、ライブ映像配信、字幕・生字幕、システム開発の企画から制作運用まで一貫したサービスをご提供しています。

デジアサでは、かねてより筑波大学附属聴覚特別支援学校の生徒さんをお招きした企業見学を実施しており、2019年度は生徒の皆さん13名・先生3名が来社しました。

字幕制作現場をメインに、データ放送やスタジオなどを説明して回ります。その説明を先生が手話で生徒さんたちに伝えます。最初は緊張していた皆さんも、打ち解けると身振り手振りで私たちとコミュニケーションをとろうとしてくれ、スタジオでのカメラ操作や、セットでの記念撮影などを楽しんだ様子でした。質疑応答では、「TVerにも字幕を付けて」「生放送での

字幕を速く出して」「(スタッフは)何故この職業を選び、実際に現場で働いてみてどうか?」等、様々な意見や質問が飛び交い、皆さんの真剣な眼差しが印象的でした。

後日の感想文では、「テレビの仕事はチームワークを大事にしていると分かった」「体に気をつけて、たくさんの番組の字幕を作ってほしい」等、嬉しい言葉をたくさん頂きました。

皆さんの笑顔をお忘れずに、デジアサはこれからも確かな情報を迅速にお届けできるよう業務に取り組んでまいります。



基本情報

筑波大学附属聴覚特別支援学校・ビジネス情報科 研修旅行会社見学 日時 2019年5月15日(水)

新型コロナウイルス感染拡大 テレビラジオでの取り組み

アナウンサーによる『絵本読み聞かせ』企画

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国的に休校やイベントの自粛などが進んだ2020年3月、自宅待機を余儀なくされている子どもたちや親子に有意義な時間を過ごすしてもらう助となればという思いから、ABCテレビアナウンサーによる絵本の読み聞かせを実施しました。講談社の協力を得て、YouTubeにて読み聞かせ動画を期間限定で配信しました。

基本情報

ABCテレビ×講談社 絵本読み聞かせ配信
期間 2020年3月11日(水)～4月5日(日)
出演 ABCテレビアナウンサー(岩本計介、川添佳穂、津田理帆、増田紗織)
配信 ABCテレビ公式YouTube 及び 講談社えほんチャンネル公式YouTube

2020年、春。卒業式をあなたに…。ラジオで卒業式 ～今こそ、家族とABCラジオ～



ABCラジオでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で残念ながら卒業式ができなかった小学生・中学生・高校生、そして、その家族や先生から卒業のタイミングで伝えたかったメッセージ、卒業式でやりたかったことなどを募集し、生放送で「ラジオで卒業式」を開催しました！



ABCイチの「熱き泣き虫おじさん」伊藤史隆アナウンサーと北京五輪日本女子代表の「超熱血おかん」の小林祐梨子さんが、その熱い思いを伝えました。

そして、卒業生の門出を祝うべく、M-1王者のミルクボーイ、ネイビーズアフロ、丸亀じゃんごらがネタを披露。さらにET-KING、近藤夏子、有華らアーティストが、スタジオで卒業生へ歌に想いを込めた生ライブを行いました。

基本情報

期間 2020年3月22日(日) 14:00～17:00
会場 ABCラジオ第一スタジオ

今後に向けて

「グループCSR勉強会」の開催 ～CSRの土台作り～

19年度の重点目標として「命と暮らしを守る情報発信と取り組み」とともに掲げてきたのが「CSRの土台作り」でした。全従業員に向けた「CSR通信」メールの発行や、各社を巻き込んだCSRイベントなどを通じて、グループ各社各員のCSR意識の醸成を図る呼びかけや取り組みを続ける中、9月20日には当社初の「グループCSR勉強会」を開催しました。講師に細田悦弘氏を迎え、『先進のCSR』でつかむ！時代が求める新しい企業競争力」と題して、CSRやSDGs、ESGなどを講演や参加者との対話を通じ体系的に整理していただきました。モヤモヤしていたものがスッキリと整理されたという声が多く、改めてCSR視点での取り組みの重要性を学ぶ「土台作り」の貴重な時間となりました。



細田悦弘講師よりコメント

～CSRを原動力に、時代にふさわしく存在意義を発揮しよう！～

19年秋、年度重点目標の一つであるグループCSRの土台作りの一環として、CSRの勉強会にご招聘いただきました。社長はじめ役員・グループ社員の多くの皆様ご参加(大阪中継)され、大変熱心にご受講いただきました。私は宣伝部出身でもありますので放送局さんには親しみがありますが、当日は楽しい雰囲気の中にも、実直で真摯な姿勢に感銘を受けました。

朝日放送グループの経営理念には、「変化に対応しながら進化を続け、強力な創造集団として、社会の発展に寄与する」と掲げられています。

優良企業の経営理念には、おしなべて「社会を幸せにしたい、豊かにしたい」という趣旨が込められています。いつの時代にも理念を実現するためには、あらゆる変化に柔軟に「対応」することが不可欠です。企業も錆びます、老けます。企業活動に磨きをかける「社会対応力」こそが、CSRの真髄です。朝日放送グループの経営理念には、「変化に対応」と「社会の発展」という珠玉のキーワードがあります。時代と調和し、企業の存在意義ともいえる理念を実現する原動力となるのが、CSRです。

こうした文脈による大きな成果が、昨年度の「阪神淡路大震災25年企画・映像アーカイブ公開プロジェクト」といえます。地元有力メディアならではの25年前の責任ある成果物を、現代及び次世代へとつなぐ貴重な

取り組みです。まさに、CSRのスローガンに掲げる「明日の大人たちへ」の具現化につながっています。スマホもインターネットも未発達な時代の「掛け替えのない財産」を新しいプラットフォームで蘇らせ、今にふさわしく社会的使命を果たされています。

5Gが普及して通信と放送の区別がなくなりつつある中で、公共財である「電波」を利用する放送メディアの特徴は、きわめて高い「公共性」です。放送メディアは、他に比べて、受け手に与えるインパクト(社会的影響力)が強いのは不変であり、多くの人々に気づきを与え、動かす力を持っています。

来たるべき大阪万博(SDGs万博)に向けて、みんなで希求すべき「サステナビリティ」の啓発・普及の旗振り役として、中心的な役割を果たしてください。ぜひ全社員で「CSRの原理(現代社会への対応力)」を踏まえ、「朝日放送グループならではの」信頼できる情報提供と時代の価値観を捉えた良質なコンテンツづくりで社会の期待に応え、コーポレートブランド・企業価値向上につなげてください。

ほそだ えつひろ

細田悦弘

中央大学大学院 戦略経営研究科 フェロー /
一般社団法人日本能率協会 主任講師



朝日放送グループホールディングス(株)総務局OPEN↑(オープンアップ)推進部/CSR担当

細田さまには貴重なコメントを頂き、お礼申し上げます。震災アーカイブ公開の取り組みやメディア企業のCSRのあり方にも言及頂いて、当グループの社会に対する企業責任の重さを改めて感じています。

2019年度のCSR活動の推進テーマは、グループ内でCSRの浸透を図る「土台作り」と、頻発する自然災害に対応する「命と暮らしを守る情報発信と取り組み」を進めることでした。時に世界的な感染症蔓延という新たな課題対応にも迫られる中、引き続き、このテーマが当社および社会の重要課題と捉え、2020年度も継続して重点目標として進めます。今後も本来の事業を活かした様々なCSR活動を通じて、より多くのステークホルダーのみなさまからの信頼と期待を頂けるよう努めて参ります。

CSR活動報告2019

対象期間：2019年4月～2020年3月 発行年月：2020年5月
会社情報サイト：<https://corp.asahi.co.jp/>